

## 議会運営委員会行政視察報告

1. 視察日程 令和元年10月29日(火)～30日(水)
2. 視察場所 鹿児島県いちき串木野市、阿久根市
3. 視察参加者 委員長 小春稔 副委員長 堀典義  
委員 真砂矩男 委員 藤本治郎 委員 田原祐二  
委員 真鍋公博 議長 渡邊雄爾  
(随行職員) 議会事務局長 坪井尚裕
4. 参加者
  - ①いちき串木野市  
議長 平石耕二 議会運営委員長 原口政敏  
議員 宇部耕平
  - ②阿久根市  
野畑市議会議長 仮屋園副議長 牟田議会運営委員長  
早瀬事務局長 牟田次長
5. 視察事項
  - ①いちき串木野市  
【視察内容】  
(1) 議会運営全般について、(2) 議会改革について  
【背景】  
いちき串木野市は、薩摩半島の西北部、東シナ海に面し、日本三大砂丘の一つである吹上浜の北端に位置し、県都鹿児島市から北西に40km、JRで約40分、南九州西回り自動車道を利用すると車で約25分の距離にある。周囲は、薩摩川内市、日置市と接し、海を隔てて甑列島を眺望できる。面積112.30km<sup>2</sup>、人口27,766人(11月現在)、南九州の食の情報発信基地として「食」に関する取組みがさかんである。  
  
【議会改革】  
(1) 議員と語る会(議員報告会)の開催
    - ・平成20年度から毎年開催し、令和元年度で12回目となる。
    - ・議員16人を3班に分けて、市内15会場に出向き実施する。  
(令和元年度444人、平成30年度506人、平成29年度541人)

- ・会の名称変更（議会報告会→市民と語る会→議員と語る会）
- (2) 議員研修会の開催
- ・平成 22 年度から 25 年度までは「財政問題議員研修会」として開催。
  - ・平成 26 年度から「議員研修会」と名称を変更して開催している。  
（原則、定例会の無い月に 5～6 回程度開催）
- (3) 議会音響設備の更新、議会中継システムの導入
- ・平成 25 年 8 月、開かれた議会づくりの推進（情報公開）のため、合併補助金を活用し、本会議場のマイク及び音響設備を更新。（事業費約 960 万円）
  - ・平成 25 年 9 月、本会議の生中継及び録画中継を開始。
  - ・平成 26 年 1 月、委員会室のマイクシステムを更新（事業費約 250 万円）
  - ・令和元年 6 月、スマートフォンでの本会議中継の視聴が可能となる。
- (4) 議会基本条例の制定、検証
- ・平成 19 年度から検証を開始し、平成 24 年 4 月からは財政問題議員研修会を行ってきた。平成 25 年 6 月議会で議決し制定する。
  - ・毎年 7 月に開催される議会運営委員会において、前年度の検証を行い、8 月の議員研修会で報告・確認している。
- (5) 議会報告の充実
- ・平成 19 年 12 月、「議会広報特別委員会」を設置する。  
（任期 2 年、以後継続）（改選、構成替えごとに選出）
  - ・確定例会毎に 1 回発行、新年号と合わせると年 5 回の発行。
  - ・平成 28 年 5 月、市議会だより（議会広報紙）の全面カラー化に。  
（一層親しみのある、分かりやすい紙面づくりを目的に）
  - ・平成 28 年 7 月、市ホームページのリニューアル化。  
（掲載項目の追加、内容の充実）
  - ・令和元年 5 月、表紙写真を「西薩写友会（市内の写真愛好家）」に委託する。（市内の風景等→祭り・観光地・四季折々の風景など）

## 【所感】

いちき串木野市は、人口 27,766 人（11 月現在）と規模的には杵築市とほとんど変わらない。有名な観光地であり、産業も一次産業より観光業が中心のようである。

議会においては、議員定数 16 人で、常任委員会は「総務文教」「産業厚

生」の2つ、構成は8人ずつとなっているようである。会期日程は平均28日で、一般質問をする人は平均で8人、質問方式は一問一答方式、答弁時間を除く45分以内である。

議会活動の中で、特に目に付いたのが、第12回目という「議員と語る会」（これは杵築市議会での「市民との意見交換会」と同じものだと思うが）では、市内を15地区3班に分けて5日間行うということであり、かなりハードだと思う。

また、議会傍聴者は、平成28年132人、平成29年139人、平成30年148人と年々増加しており、定例会平均で約35人が傍聴していることになる。市民が日頃より、いかに市政に関心を持っているかということが伺える。何かがあってから市政に関心を持つ人が増えるのではなく、日頃の議員活動の中で、議員一人一人が市民目線で市政向上のために訴えていくことが大事ではないかと思う。今後も、議会の質の向上を目指し、市民のことを第一に考え、議会活動を行っていかねばならないことを改めて痛感した。



## ②阿久根市

◇阿久根市の概要(別紙、阿久根市議会の概要等参考)

- ・人口は20,590人(高齢化率40.05%)、面積134.29k㎡。
- ・平成の大合併はしていない。
- ・主要産業は漁業、農業では生産量日本一の文旦が有名。
- ・平成31年度一般会計当初予算 11,960,000 千円、5つの特別会計。水道事業。

◇視察内容【別紙、次第に沿って進行】

1. 阿久根市歓迎あいさつ(議長退席のため、副議長)  
宿泊のお礼、九州議長会での渡辺杵築市議会議長との縁
2. 杵築市議会あいさつ(小春議運委員長)  
宿泊先等の紹介、特産品のお礼、杵築市の、城下町や着物観光等概要を説明
3. 調査事項～「議会運営委員会と議会改革等について」【別紙、調査資料に沿って】
  - (1) 議会運営委員会での協議・説明内容
    - ・定例会の流れ、議事録完成後、委員会報告作成、年間の予定と概要を説明
    - ・議員定数15人～会派なし
    - ・議運の開催状況～一定例会3回(基本)
  - (2) 意見書等の取り扱い
    - ・福祉や原発(薩摩川内市に隣接)関係の意見書が多い
  - (3) 提出議案の事前説明
    - ・原則、議案に対する執行部からの事前説明は行われていない。
  - (4) その他

◇質疑応答

Q～議会基本条例を制定されていますが、状況はどうですか？

A～毎年度3月定例会で評価している。5段階評価。HPで公開。

Q～議会災害対策会議設置要綱を制定しているようですが？

A～九州北部豪雨後、福岡県古賀市や宮崎県小林市を議運委員会で視察調査し、平成31年3月に制定。併せて対応マニュアルも(議員の安否確認、議会事務局への連絡等)

Q～名刺に「かぞくいろ」の写真があるが？(別紙パンフレット)

A～阿久根市を通る肥薩オレンジ鉄道を舞台にした映画。

阿久根市出身の、明治時代の寺島宗則(電信の父、外交官)を顕彰し、観光に活用できればと企画している。旧家を保存修築する総事業費は1億7千万であるが、財政的に厳しいので、市人会等様々な縁での寄付を募集している。

Q～杵築市と同様に女性議員がいないようですが？

A～立候補は2名あったが、残念ながら。

Q～予算特別委員会はどうされていますか？

A～4日間行う。1日に3～4課(全21課)。課ごとに説明し、課ごとに質疑。

最終の4日目に総括質疑。市長はその日のみ出席。現地調査する場合もある。

Q～他自治体への視察後に、その視察内容に関する関係団体と意見交換しますか？

A～視察内容を議会だよりに掲載するので、意見交換をしていないが、政策提案的なものは意見交換する場合がある。

Q～一般質問の人数は？

A～最高13人の時があった。詳細は調査資料の7Pを。多くても夜まで延長して2日間で終わる。1人60分(杵築市と同じ)

Q～議員定数が通常偶数が多いと思われませんが、奇数の理由は？

A～議員定数削減委員会で奇数になった。

Q～議会中継は？

A～平成13年度からインターネット生中継(TVなし)。24年度から録画中継も。

Q～政務活動費はあるのですか？

A～廃止しました。

Q～道の駅「あくね」に行きましたが、状況はどうですか？

Q～できてから20年近くになるが、まちづくり公社に委託している。収支は一応黒字であるが、管理運営等厳しいものがある。第2の道の駅の話もある。

Q～以前はイワシも獲れたようですが？

A～魚全体が取れなくなっている。20、30年前に比べると水揚げが70億から20億円に減り、漁協も厳しい。温暖化の影響か、沖縄地方の魚が獲れることもある。

ウニ、ヒラメ、オコゼ、アワビ等育てる漁業を目指しているが、後継者問題も含め厳しい状況である。

Q～農業関係はどうですか？

A～ぼんたん、たけのこの加工品(缶詰日本一)。以前はエンドウやソラマメ

も盛んだったが、高齢化のため、減少している。

Q～子育て施策は？

A～第1子3万円、第2子5万円、第3子以降10万円。商品券を差し上げている。

#### 4. その他

阿久根市議会側から議会の情報化（I パッド等）の質問があり、操作しながら説明する。

#### 5. 杵築市議会あいさつ(堀議運副委員長)

昨日からのお礼と杵築市への視察をお願い。

◇その後、阿久根市市民交流センター「風テラスあくね」を見学。

#### ◇所感

阿久根市では、議会災害対策会議設置要綱が制定され、災害時の議員の対応マニュアルが作成されていた。杵築市議会でも制定に向け、対応していかなければならないと考える。情報交換の中で、議会のペーパーレス化、ICT化は杵築市議会が先進市議会だと改めて感じた。本市への行政視察が増え、少しでも知名度がアップし、観光客が増加する一助になればと思う。

